

第137号 令和4年4月1日

編集・発行 矢沢地域振興会

〒025-0016 花巻市高木 19-24-14 矢沢振興センター内 電話・FAX 29-5480

## 令和3年度（第42期）矢沢明老大学閉講式

令和3年度矢沢明老大学の閉講式が、年度末の3月28日に矢沢振興センターで開催しました。今年度はコロナ禍の影響で予定されていた講義10回のうち6回の実施となりました。受講生は96名、修了証書授与対象となる4回以上の受講者は27名、うち皆勤者は3名でした。閉講式には19名の受講生が出席し、受賞者一人一人に矢沢地域振興会の中島健次会長から精勤賞及び皆勤賞を授与しました。会長の挨拶後、受賞者を代表して高木団地こぶし会の澤田順子さんが感想と感謝の言葉を述べられました。来年度こそ計画する講義の全てが順調に開催できることを願っています。引き続いでの受講をお願い致します。また新たな受講生は大歓迎ですので、よろしくお願ひいたします。



矢沢小学校

### 教職員転出のお知らせ（敬称略）

矢沢中学校

職種	ご氏名	転出先
教諭	佐藤直志	定年退職 (再任用で花巻市立新堀小学校)
教諭	高橋修	定年退職 (再任用で花巻市立矢沢小学校)
教諭	加藤拓	花巻市立大迫小学校
養護教諭	小原ひとみ	花巻市立矢沢中学校
教諭	多田健一	花巻市立若葉小学校
教諭	佐藤幸恵	滝沢市立滝沢第二小学校主幹教諭
主事	阿部美里	盛岡教育事務所
栄養教諭	松倉久子	退職
教諭	小原昭徳	退職
教諭	今野美紀	花巻市立東和小学校
講師	立川目(工藤)真帆	退職
講師	蛭田章久	北上市立黒岩小学校
スクールサポートスタッフ		
	八重樫雅彦	退職

職種	ご氏名	転出先
副校長	西村蘭子	紫波町立紫波第二中学校
教諭	吉田靖雅	花巻市立東和中学校
教諭	萬英一	花巻市立南城中学校
教諭	浅野倫子	盛岡市見前中学校
養護教諭	上館睦子	花巻市立若葉小学校
講師	大坊真理	退職

矢沢の子ども達の成長にご尽力いただき、  
ありがとうございました。  
新任地でのご健闘をご祈念致します。



# 令和3年度 明老大学 精勤賞の皆さん

(◎印は皆勤賞受賞者)

所属名	氏名（敬称略）	所属名	氏名（敬称略）	所属名	氏名（敬称略）
高木第二明老会	高橋 功	高木団地こぶし会	齊藤 建一	島第三後楽会	鴨澤 寿満子
同上	◎菅原 重太郎	同上	◎多田 功	同上	佐藤 晃子
同上	佐藤 栄子	同上	◎澤田 順子	一般	浅沼 昭
同上	川村 ナミ	同上	宮田 孝子	同上	菅 恵子
同上	新山 洋子	同上	高橋 久美子	同上	阿部 潤子
同上	佐々木 悅子	島第一後楽会	押切 康一	同上	遊田 リヨ
同上	神山 征子	同上	押切 幸	同上	佐藤 隆子
高木団地こぶし会	伊藤 昇	島第三後楽会	古川 松江	同上	伊藤 八重子
同上	小原 薫	同上	高橋 サダ子	同上	簾内 貞子

## 健やかに育ってね！アカちゃん

矢沢地域振興会では、「子どもは地域の宝」という認識のもと、新生児へのプレゼント事業を行っています。今年度も21名の赤ちゃんからご連絡を頂きました。新生児の健やかな成長を願いつつ、赤ちゃん誕生のご連絡を待っています！

### 移動図書館車巡回日程(ぎんが号)

4/6 (水)	団地会館	13:30~13:50
4/13 (水)	高木観音	09:20~09:50
4/13 (水)	振興センター	10:05~10:35
4/13 (水)	やさわこども園	10:50~11:20



怖いおじさん達に  
囲まれても動じません！

### 【事務局員のつぶやき】（3月23日は世界気象デー！）

一般的に聞き覚えの無い言葉に国際デーがあり、数多くある国際デーのひとつに「世界気象デー」があります。ちょっとぴり堅い話ですが、今回は「世界気象デー」について紹介します。

昭和27年に制定された気象業務法の目的として、「気象業務に関する基本的制度を定めることによって、気象業務の健全な発展を図り、もって災害の予防、交通の安全の確保、産業の興隆等公共の福祉の増進に寄与するとともに、気象業務に関する国際的協力をを行う」とあります。この国際的協力をを行う機関として、1950年（昭和25年）に世界気象機関（WMO）が発足し、翌年国際連合の専門機関としてスイスのジュネーブに本部が置かれて、現在加盟国は日本を含む186か国となっています。

世界気象機関（WMO）は、気象観測や気象関連の地球物理学的観測のための観測網を、世界的に構築する協力体制を整えるとともに、情報の迅速な交換、観測結果や統計の公表の確保、農業や航海といった人類の活動に気象学を応用し、国際的な気象研究・教育を奨励、援助するなどを目的として1950年（昭和25年）3月23日に発足しました。世界気象機関の発足を記念して、発足10年後の1960年（昭和35年）に3月23日を「世界気象デー」として制定されました。

3月23日の「世界気象デー」には毎年テーマを設定して、気象業務への理解促進を目的にキャンペーンが行われています。今年のテーマは「早めの警戒、早めの行動」－防災のための気象・水・気候情報－となっており、このテーマの重要性をスポットライトに充てて、キャンペーンの中で世界気象機関からのメッセージを紹介しています。ちなみに昨年のテーマは、「海洋と私たちの気候・天気」でした。

【話は横道にそれますが、第二次世界大戦中は気象の観測データは、殆ど国民の目に触れることはなく、軍事作戦に欠かせない資料として、天気予報も含め公表しないよう軍部から命じられていました。

そのような時代に、昭和16年まで中央気象台長（現気象庁長官）を務め、冷害克服を目指し岩手山測候所の創設（昭和11年）など様々な分野で気象界の礎を築いた人物として気象学の父岡田竹松博士がいます。当時岡田竹松台長は、気象事業を軍の管理下に取り込もうとする軍部の横暴な要求に屈しなかつた人物として、また優れた気象研究者として「世界のおかだ」と呼ばれていました。

現在、ロシアによる侵略戦争の影響で、観測機器等の破壊などによりウクライナの気象情報が入電しないことが多い状況にあり、この21世紀に絶対あってはならない事態となっています②②②！】